

**首都高速道路構造物の大規模更新のあり方に関する調査研究**  
**第2回委員会 議事要旨**

日 時：平成24年5月8日（火）14:00～16:00

場 所：イイノホール&カンファレンスセンター Room A1

出 席：委員長 涌井 史郎（東京都市大学環境情報学部 教授）

委員 秋池 玲子（ポストンコンサルティンググループ パートナー&マネージング・  
ディレクター）

石田 東生（筑波大学大学院システム情報工学科 教授）

勢山 廣直（（独）日本高速道路保有・債務返済機構 理事長）

藤野 陽三（東京大学大学院工学系研究科 教授）

前川 宏一（東京大学大学院工学系研究科 教授）

真下 英人（（独）土木研究所道路技術研究グループ グループ長）

三木 千壽（東京都市大学総合研究所 教授）

議 事：

1. 損傷の発生要因の整理
2. 検討箇所の絞込み
3. LCC 検討の考え方
4. その他

（主な意見）

- ・更新をするかしないかの判断をするための指標が、すべて該当したものをピックアップするのではなく、初めは幅広く抽出した方がよいのではないかと。また、1つでも項目が該当したら抽出するという重要な要因があるのではないかと。
- ・更新か、補強か、維持補修かについては、次のステップで、詳細データを元に議論をする必要がある。
- ・従来のアセットマネジメントの概念と異なり、損傷状況が激しいため、維持補修・補強を続けるより、ある区間をまとめて架け替えると LCC でコストが低くなる可能性があるという説明をする必要がある。
- ・社会的損失・便益については、他にも項目があると思われるので、幅広く項目を出すとういのではないかと。
- ・更新すべきかどうか、区間の抽出を行う項目について考慮すべきことは、安全、安心、快適

性の観点から、どこまでやるべきかという道路の性能面からの整理が必要である。

- ・ 将来の構造物の状況を見据えた優先順位と、いつ、どこから更新すべきかという大規模更新の時間軸の検討が必要である。
- ・ 耐震補強は行っていることを前提としつつも、大地震が発生した場合のリスクも考慮する必要があるのではないか。
- ・ 首都高沿道のまちづくりや再開発の状況、社会が首都高に期待する大規模災害時のレジリエンス等は、社会の要請事項として、その扱いについて整理が必要である。
- ・ トンネルについては、表面の補修は比較的簡単に実施できるが、構造物の補強となると大規模な工事になり、難易度が高くなることを考慮した検討が必要である。